

2009 年度事業報告

NPO 法人日印交流を盛り上げる会

世界金融危機以来、インドへの経済界の関心が高まり、対印民間直接投資は、中国、アセアンとも肩を並べる水準に至る。しかしながら文化交流は極端に少ない現状。民間の市民国際交流の場から、創造的な新たな活動を通して、日印の文化交流を推進しました。

当会の事務局を置くミティラー美術館は、多いときには6メートルを超える雪の森に開発の代替案として開館して以来、自然との深いコミュニケーションをもつ南の国の文化を紹介。延べ100人を日印の国家催事「88 インド祭」以来、同美術館を事務局とする「ポストインド祭を考える会」の活動を継承しつつ、舞踊・音楽公演を全国規模の国際交流の推進基地としての役割も果たしてきました。5年前より日印経済委員会より引き継いだナマステ・インディアは日本最大のインド・フェスティバルとなり、昨年は2日間(代々木公園)で14万人が参加する一大イベントとなりました。

①インド文化交流評議会派遣カタック舞踊(2名、9/17-9/29)

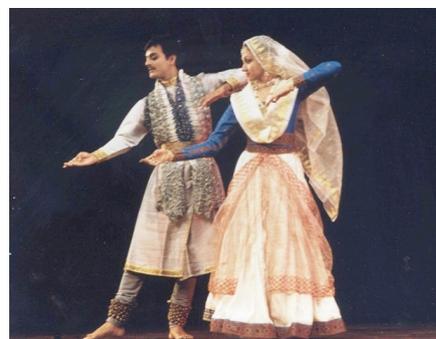
インド政府が派遣したカタック舞踊団。カタックは北インドの古典舞踊。これは「物語の語り」というアートを起源としています。様々な進化を経て、現在のカタックになりました。カタック舞踊は、旋廻を基本とする激しい動きと、ピタッと止まって見栄を切るような仕草が特徴。艶やかな衣装の踊り手は、インドの宮廷文化を反映しています。足につけた鈴を打ち鳴らし、激しく踊る姿は、フラメンコの源流と言われています。

カタック舞踊団

Mr.ヘマンタ・クマル・カリタ

Ms.モウマラ・ナヤク

日時	内 容
9/17	来日
9/18	福岡アジアフェスティバルメインステージ 福岡アジアフェスティバルメインステージ 福岡アジアフェスティバルメインステージ
9/19	イベントステージ 福岡アジアフェスティバル ワークショップ 福岡中央児童館 福岡アジアフェスティバル キャナルシティ・ステージ 福岡アジアフェスティバルメインステージ
9/20	福岡アジアフェスティバル キャナルシティ・ステージ 福岡アジアフェスティバルメインステージ 福岡アジアフェスティバルメインステージ
9/21	広島市光明寺 公演
9/23	沼津市松蔭寺 公演
	インド文化センター オープニング公演



9/26	ナマステインディア 開会式 公演
	ナマステ・インディア公演
9/27	ナマステ・インディア公演
9/28	インド文化センター 公演

②インド文化交流評議会派遣クチプディ舞踊団(5名、10/8-10/28)

インド政府文化交流評議会ICCRが、インド7大古典舞踊の一つクチプディの最も傑出したダンサーとして有名なマンジュ・ヘママリニ・チャヴァリさんを派遣して、新潟市・佐渡市・東京・群馬で公演しました。また、インド人演歌歌手チャダさん、吟遊詩人バウル、インドのフォークアーティスト4名も参加。素晴らしいステージとワークショップとなりました。

日時	内 容
10/10	来日
	愛知県刈谷市でナマステ・インディア in 刈谷に出演
	ナマステ・インディア in 刈谷に出演
10/12	新潟市 護念寺で公演
10/14	新潟市 クロスパル新潟で公演
10/19	佐渡・赤泊に移動
10/20	佐渡市長 表敬訪問
10/21	赤泊福祉施設で公演
10/22	佐渡市川茂小学校ワークショップ
10/23	赤泊保育園ワークショップ
	赤泊小学校ワークショップ
	国際親善交流会
10/24	佐渡市赤泊 公演
10/27	インド文化センター公演
10/28	群馬・光恩寺公演



③インド・フォークアートの広場(招聘アーティスト4名、7/3-9/27)

「ナマステ・インディア」での展示およびナマステに先行して、ミティラー美術館で7月3日から展覧会「インド・フォークアートの広場」が、日本芸術文化振興基金、花王芸術・科学財団の助成を得て開催されました。9月頭にバンブーアーティストとテラコッタ・アーティスト(陶工)が、美術館に滞在し公開制作をしました。一昨年のナマステ・インディアで大好評だった「象の広場」「フォークアートの広場」をさらに充実させる目的で、地方山間地の美術館施設を活用し、インドより輸入することが難しい大型の作品を制作。地方と大都会の集約的なイベントの相乗効果をねらう新たな試みです。ちょうど十日町では「大地の芸術祭 越後妻有アート・トリエンナーレ 2009」が開催されていました。



④インド古典音楽&舞踊公演(3/27 ヨガ&タブラ&インド舞踊)

「2009年度日印文化センター賞」をインド大使館より授与され、それを記念してICCRよりインド大使館に一時的に派遣されているタブラとヨガの先生、横浜で活躍するおディッシーのダンサー桐山日登美さんの公演でした。また、3/26には、十日町市老人福祉施設でのワークショップ公演が行われました。インド大使館 ICC 担当のヴェンカトチャラム氏および十日町副市長もご出席。公演後、ヴェンカト氏の歓迎・交流会が開かれ、交流を深めることができました。



⑤インドフェスティバル・ナマステ・インディア2009(9/26-9/27)

東京・代々木公園/共催: インド大使館、インド文化交流評議会(ICCR)、ナマステ・インディア実行委員会、NPO法人日印交流を盛り上げる会、インドセンター、インド政府観光局

代々木公園で開催されたナマステ・インディア 2009 は、天候にも恵まれ、2日間で16万人の人出でにぎわいました。これは食・物産・舞踊・音楽など多彩なインドの文化を知り、楽しみ、交流する目的で毎年秋に都内で開催されているインド・フェスティバルです。1993年、(財)アジアクラブと日印経済委員会の共催で始まりました。現在はインド大使館をはじめ、インド政府観光局、外務省、東京都、日本・東京商工会議所、日印経済委員会、(財)日印協会など多くの後援とナマステ・インディアの関係団体の参画をベースに、ナマステ・インディア実行委員会、NPO 法人日印交流を盛り上げる会、インドセンターとが企画・実行するイベントです。



⑥インド文化交流評議会派遣セライケラ仮面舞踊団(8名 10/1-10/4)

横浜関内での公演のために来日したセライケラ仮面舞踊団がインド文化センターおよび大田区民会館でのディワリ・フェスティバルに参加し、その後ロシアに移る間、日本での受け入れとして協力。



⑦インド文化センター賞授賞式(1/15)

ミティラー美術館およびNPO法人日印交流を盛り上げる会が、日印交流活動の功績が認められて、「2009年度日印文化センター賞」をインド大使館より授与されました。これは2007年にインド文科省ICCRから「日印交流年賞」の授与に続く第二弾となるものです。



インドは新生インドをアピールするために世界各地での建設計画を立て、その皮切りに東京コンストラクションプロジェクトとして新しい機能を備えた大使館、大使公邸、次席大使公邸、公使公邸、職員マンション、アパートメントなど 1,3100 m²、計8つの建物を建設しました。昨年9月のナマステ・インド前日に、政府閣僚の ICCR カラン・シン会長出席の元にオープニングが行われ、翌日の当会主催のナマステ・インド 2009 の開会式にも参加されました。

カラン・シン会長の計らいにより「インドセンター賞」が創設され、その第一回目を受賞することになりました。インド文化センターは、地元での受賞記念公演のために ICCR 派遣のヨガ、タブラ(太鼓)の先生を派遣してくれました。また、インド大使館インドセンター担当官 Mr. Venkatachalam 氏も公演および祝賀記念パーティに参加しました。

⑧インド共和国記念日協力(1/23)

大使館の依頼で、インド共和国記念式典に協力して、会場にミティラー一画、ワルリー一画を展示しました。式典終了後、直ちに撤去するという大変忙しい日程となりました。

⑨日印農業協力に関する「新潟討論」(12/4)

)

ー新潟から始まる日本の対印農業ビジネスーというタイトルのシンポジウムが新潟で開かれました。

主催:JNUインド・ジャワハルラルネルー大学日本同窓会/NPO法人日本語で行う日本ーインド間事業を支援する会/NPO法人日印交流を支援する会

後援:農林水産省/(独)国際協力機構/(財)日印協会/(財)新潟県国際交流協会/(財)新潟市国際交流協会

助成:(独)国際交流基金

インド側からアンドラ・プラデシュ州議会議長を団長とする 5 名の参加者を迎え、新潟県立大学長、新潟大学農学部長他、JICA 関係者や日本の有数の農機具の社長、県、市他の関係者、約 100 名ほど参加。インドと日本の農業協力について有意義な話し合いがありました。また、大使館からは経済担当公使も参加されました。

⑩日印文化交流ーインド大使館職員の日本文化体験協力

インド大使館の文化担当官、商務担当公使等昨年3月まで、4人の大使館職員と家族が十日町を訪問、雪や着物、温泉など初めて体験する日本の文化を楽しまれました。

